

学習成果の可視化を果たす新たな取り組み

— 学生の主体性を引き出す、動画によるAL教育改善モデル —

福岡医療短期大学

岡崎晴菜 甲斐奈月 南レイラ 黒木まどか 斉田直樹 古野みはる

1 はじめに

本学では、“アクティブ・ラーニング（主体的な学び）”と“学習成果の可視化（見える化）”の2つの『教育要素』を活用することで、卒業後の専門能力・汎用的能力の育成・伸長に繋げる取り組みを行っており、歯科衛生士、介護福祉士という医療・福祉系の専門職種を養成する短期大学の特色を生かした教育方法の改善を進めている。平成26年度から、(A) 卒業後の専門職種としての汎用的能力の定着の向上、(B) 医療・福祉系実践教育におけるアクティブ・ラーニング教育改善モデルの提唱の2つの柱を達成目標に掲げ、本学の人材養成機能の抜本的強化を図っている。

2 取り組みの概要

本学では今年度より、Moodle（e-ラーニングを提供する学修管理システム）が整備された。在学生は4月に学内LAN登録を行い、学園内ではいつでも学生掲示板やMoodleへのアクセスが可能となった。今回、そのMoodleに動画教材を登録し授業に取り入れることで、アクティブ・ラーニングの充実と学習成果の可視化を図った。対象授業は『歯科診療補助実習Ⅰ』における3種類の歯科用材料の練和法を修得するユニットで、該当実習前に動画教材を1本ずつ計3本Moodleにて公開し、学修到達目標を明示した。実習前の予習や実習後の振り返り、実技試験前の自己学修への取り入れを促すことで、学生自身の主体的な学びに繋げることを図った。また、実習時や実技試験時に学生同士で手技を撮影し合い、その動画を視聴しながら、評価シートで自己評価と他者評価を行い、学修到達度の可視化を図った。

3 取り組みの成果

①昨年度実技試験との比較：昨年度平均点は21.9点/25点、合格者率は32.0%、今年度平均点は22.8点/25点、合格者率55.4%で昨年に比べ高値を示した。なお、評価シートは同一の内容で実施した。

②実習時の評価結果：3回の実習において学生自身の手技を撮影した動画を視聴しながら、自己評価と他者評価を実施した。回数を重ねるごとに自己評価と他者評価の評価基準が近似したことから、到達目標の理解が深まったと示唆される。

③実技試験時の評価結果：実技試験時の手技を撮影し、動画の視聴なしと視聴ありの2パターンで自己評価を実施した。また、他者評価は動画の視聴ありで実施した。教員評価と自己評価の評価観点の相違箇所については、動画なしよりも動画ありの評価の方が教員評価に近い値になった。動画ありの相違箇所を自己、他者評価間で比較すると他者評価の方が教員評価に近い値となった。他者評価には及ばないが、動画を視聴することで自己に対する客観性が高まったと推察された。

④授業評価アンケート結果：Moodleの視聴回数については平均4.21回で全員が一度は視聴した。取り組みの満足度を計る質問については、6項目全てで肯定的意見となった。

4 結語

到達目標を示すMoodleの動画教材と、学修到達度を測る学生自身の手技を撮影した動画を活用することで、自分自身の客観的な振り返りが行え、問題点の発見、課題解決へと繋がった。到達目標を動画で示す今回の取り組みによって本学のDP（思考力・判断力）達成に繋がられた。実技試験前日は、スマートフォンでMoodleを視聴しながら自己学修に励む学生の姿がみられ、Moodleによる動画教材は、自己学修時の教材のひとつのツールになりえる。今後は、DPと紐づけたルーブリック評価を導入し、学生自身が学修目標の達成状況を可視化できるよう改善を図りたい。また、インターネット環境の整備やログインの手軽さ等、学生が活用しやすい環境を検討する必要がある。